



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫・教育環境	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の工夫
・思考ツールを活用して考えを可視化し、話し合いによって考えが深まるような学習を重視する。 ・体験的・問題解決的な学習を重視する。 ・チームティーチングや習熟度別指導の工夫をする。 ・発展的な学習・補充的な学習を開発する。	・ICT機器の活用を推進し、校内ネットワークを活用する。 ・毎週 (火・金)、朝読書の時間と計算力アップタイムを実施する。 ・専科・固定時間割を工夫して少人数指導やT T指導を実施しやすい環境を整備する。補習を実施する。 ・学年コーナーと教材室を整備し、活用する。	・校内研究では社会を柱として、カリキュラム開発に関わる研究を行い、各教科、領域の年間指導計画の見直しを図る。 ・低中高専科分会がそれぞれに、課題解決のための提案授業を行う。 ・初任研・2、3年、10年次研・教育実習などの場を活用して授業研究を進める。	・一人一人のよさ、強みなどを把握する。 ・算数科や体育科などこれまでの研究の成果を日常的な評価活動に活かす。 ・自己点検シートや授業観察シートを用いて、お互いの授業の改善を図る。	・学校公開の保護者の感想や外部評価などを授業改善に活用する。 ・道徳授業地区公開講座を実施する。 ・家庭学習の習慣化を図る。 ・外部評価を活用する。	・中学校の生徒 (生徒会役員) による学校説明会を実施して、中学校の勉強や生活について話を聞いたり、質問したりする場を設定する。 ・課題改善カリキュラムの内容を意識した学習指導を展開し、中学校区別協議会にて、生活指導や学習指導の現状や課題を共有して、児童・生徒の指導に生かせるようにする。